

NACS-J 自然観察指導員養成 40 周年記念キックオフイベント

私たちがつなぐ、自然観察指導員の一步

塚間初枝（四街道市）

日 時：2019年3月9日（土） 9:30～17:00

場 所：国立オリンピック記念青少年センター

参加者：伊藤道男、佐野由輝（NACS-J 自然観察指導員講習会講師）、高木純一、塚間初枝

自然観察指導員誕生から40年、これまでの歩みを振り返り、次の10年へ向けた方向性を考えるキックオフイベントが開催され、100名近い指導員や関係者が集まりました。

◆基調講演：「自然観察、次への一步へ」 植原 彰氏（日本自然保護協会理事）

自然観察指導員講習会を40年間に500回開催、3万人以上が登録し、全国各地の指導員が年間のべ130万人を対象に観察会を行っていることは「自然観察」という言葉を社会に定着した最たるもの。また、世界遺産となった白神山地の保全など全国で展開してきた自然を守る様々な取り組みが社会の意識を変え、その成果は指導員活動の評価に繋がっている。

次に、豊かな自然を次の世代に渡すためには、「自然観察からはじまる自然保護」を合言葉に、自然観察指導員の目で自然を観て活動することの意義を再確認した。

最後に、これから活動は、SDGsの鍵としての自然保護・自然観察を意識し、社会の課題に指導員らしいアプローチをしていくことが大切であることが示された。

◆ワールドカフェ：「次の時代にみんなでチャレンジしたい指導員活動は…？」

ワールドカフェとは、人々がオープンに会話をを行い、つながりを築くことができる『カフェ』のような空間で話し合いをする技法の一つです。時間を決めてメンバーを変えながら、4～5人のグループで話し合いました。“指導員としてやってみたい”と思うことがメンバーの間でつながり、広がっていくことに指導員としての一体感を感じる場となりました。

◆分科会：第4分科会「全ての子どもに自然体験をとどけよう！」

子どもの自然体験の重要性を認識しながらも子どもの自然体験の減少や偏在、格差が生まれている可能性が見えてきたことから、「全ての子どもに自然体験を届ける」ことの実現について話し合いました。

協議会からは、学校と連携した自然観察の実践として、小学校自然観察支援ネットワーク（SSN）の発足の経緯、意義、現状や課題等20年間の歩みを話題として提供しました。

佐野由輝 NACS-J 指導員講師からは、子どもの目線を大切にした観察会、時には子どもを前面に出した観察会など子ども向け観察会の工夫、親の意識改革、親同士のつながりなど多様な経験をもとにした話がありました。参加者からは学校と連携したいが様々な障害があり、実践に至っていない、自然に学ぶ・体験する意義はわかっているが一步を踏み出せないという悩みなど子どもたちに自然体験の場をという思いが多く聞かれました。

